



2019年11月26日、ロシア ウラジオストクのポストーチナヤ造船所において、日露プロジェクトの初号機となるカニ漁船(1,250総トン)の起工式が挙行されました。

これは、一般社団法人日本船舶設計協会がロシア漁船の基本設計と詳細設計を受注し、商社の兼松株式会社を中心となって日本製の船用機器をロシアに輸出するというプロジェクトです。初号船は2021年の秋に就航を予定しています。今後は16隻のカニ漁船の建造プロジェクトが計画されており、さらに25隻の新造計画も検討中です。初号船には東京計器のオートパイロットPR-2000とジャイロコンパスTG-8000および舵取機をご採用いただきました。

このたびの受注は、日本船舶設計協会から設計の委託を受けている三協テクノ株式会社と弊社の代理・代行店である株式会社タモットのご協力を得て承ったものです。

東京計器は、ロシア船籍の船舶に船用機器を搭載するために求められるロシア船級(RS証明:Russian Maritime Register)を取得しており、このたびの受注を契機にロシアの漁船市場にも販路を拡大してまいります。



オートパイロットPR-2000 ジャイロコンパスTG-8000

協力:一般社団法人日本船舶設計協会、兼松株式会社、三協テクノ株式会社、株式会社タモット(順不同、文中敬称略) ※写真はカニ籠漁のイメージです。